

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市なのはなホーム
2 指定管理者	社会福祉法人なのはな会
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 3,181人(前年度比79.8%) 令和5年度 3,985人(前年度比79.8%) 令和4年度 4,995人(前年度比116.7%) 《事業》 児童発達支援事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 - 指定管理者に支払った費用 72,319千円(69,871千円) - その他市が負担した費用 257千円(495千円) 《収入》 - 使用料収入 45,545千円(57,565千円) - その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 1年に1回保護者にアンケート調査を実施している。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、職員も設置目的を適切に理解し、施設運営にあたっている。 利用者個々の特性に寄り添った療育を工夫して行っている。 近隣の子育て支援機関と連携し、地域支援の充実にも積極的に取り組んでいる。	42/42
II 施設の運営管理体制	事業計画に基づいた運営がなされている。 個人情報の取扱いについては、管理責任者を定め、職員間で意識啓発を行うなど、適切な体制で管理しているほか、各種マニュアルの整備や、毎月の避難訓練の実施など、利用者の安全に配慮した運営に努めている。 経理書類の作成及び通帳印鑑の管理については適正に行われている。	25/25
III 施設・設備の維持管理	施設の保守点検や清掃を丁寧に行っており、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。	24/24
IV サービスの質の向上	法人内での階層別研修に加え、各専門職や各委員(虐待防止委員、衛生推進委員、研修係)が職員でチームを作り、自主的に研修を実施している。また、アンケートの実施等で利用者のニーズ把握に努め、利用者の意見を取り入れた施設運営を心掛けている。 家族からの要望や相談にできる限り寄り添い、適切に対応するための体制を整えている。	27/27
V 施設固有の基準	個別支援計画を詳細に作成し、定期的に見直しを行っているほか、利用者1人1人の個別課題を職員で共有し、振り返り評価を行い、個々の特性を踏まえたより効果的な療育を実施できるよう努めている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人なのはな会）による自己評価》
令和6年度は、在籍児14名で2クラスでスタートし、7月から毎月数名ずつ入園し今年度の在籍数は23名となった。年齢の幅も広く、低年齢のこどもたちも増えている。(5歳児3名、3歳児9名、2歳児6名、1歳児5名)年齢に合わせた小集団の中で、こどもが主体的に生活や遊びに向かう力をつけてきた。また、低年齢のこどもたちには生活リズムを整えるために週5日間の中で一人ひとりに合わせた通い方を提供し、生活の安定につなげてきた。毎月各クラスに新入園児が入るという形になり、保育内容や保護者対応の難しさを実感したが、各クラスでこどもたちが期待する遊びや安心して通える環境の工夫をして療育を行ってきた。 保護者支援については、日々のミーティングの工夫や月1回の保護者勉強会、普段から保護者から生活面等の聞き取りを丁寧に行い必要時は面談を行い対応してきた。行事では、人数制限を設けず家族で参加してもらった。また、行事後の保護者勉強会では、保護者へ行事のねらいや取り組みの経過を伝えこどもたち一人ひとりの発達共有の場として行い、保護者同士でもこどもたちの変化を喜んだり一緒に悩んだりする関係になっていると感じた。親子通園施設だからこそこどもたちの姿を通して保護者同士のつながりも強くなったと思う。 地域支援では、令和5年度と同様に施設訪問や地域の保護者への「ベアプロ」・「初期プロ」を行った。また、なのはなホームとおおぞらホーム全職員で地域の親子向けの夏祭りや地域支援者向け研修会を開催した。地域相談員以外の職員が地域の親子や支援者と関わることで児童発達支援センターでの地域支援の必要性を実感し地域支援への理解が深まった。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
令和6年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。 児童の年齢等に合わせた小集団を形成しきめ細かい療育を行った。年齢の幅が広い中で特に低年齢の児童に対して柔軟な通い方による支援を提供し、生活リズムの形成や自主性を育む取り組みを行った。 保護者への支援については、月に1回の勉強会を開催したり行事への参加を促したりし、保護者同士のつながりの形成を支援した。 地域への支援としては、子育て支援機関に対しては勉強会を年2回開催するに至ったほか、幼稚園・保育所からの相談件数が増加傾向にあり、着実に取り組みが実施されている。また、地域の親子向けのお祭りの開催等、積極的に地域支援に取り組んでいる。 以上より、利用児童への発達支援だけでなく、家族支援や地域支援を含め、安定した質の高い支援を提供し、良好で円滑な管理運営を行っていることから、総合的には高く評価できる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):健康福祉局障害福祉部障害者支援課